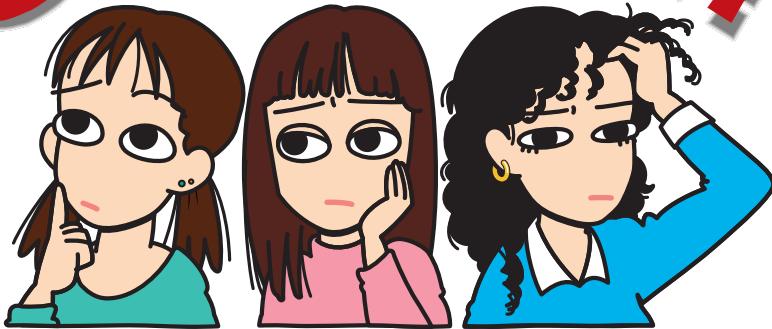


第6回 最終回

ぜんぜんわかってるの？



あの「インテル入ってる！」のCMで一躍お茶の間に名が知れ渡ったインテル。でも、どうしてさまざまなメーカーのCMに出てくるのか？ いったいインテルが入っているとどうなのか？ 今月もピギナー読者3人が、大胆不敵な質問をぶつけてみた！

photo:Hiroji Kazuo
Illust:Kido Satoko
text:Yoshida Takako (KAPS)

今月の質問に答えてくれる人



西岡 郁夫(にしおか・いくお氏)
インテル株式会社
代表取締役会長
工学博士

今月の質問する人



箱石 望さん(28歳 フリーライター)

仕事は、音楽誌のインタビュー記事などが中心です。パソコン歴は1年半ぐらい、インターネット歴は半年ぐらいですが、まだよちよち歩きといったところです。



細谷 知子さん(29歳 OL)

コンピュータのマニュアル関連の翻訳をしている会社に勤めています。パソコンは趣味でもやりますし、もちろん仕事でも使っています。



青木 夕佳さん(29歳 学生)

この春まで法律事務所に勤めていましたが、今は手話通訳になる勉強をしています。パソコンは会社で文書を書いたりメールをやりとりしたりする程度だったので、4月に自分のパソコンを購入しました。

企画・構成 KAPS

西岡会長の インターネットライフは!?

青木：お仕事以外では、インターネットをどんな風
に楽しんでいますか？

西岡：僕はノートパソコンをいつも持ち歩いている
のですが、主として電子メールが目的です。仕事中心で
すが、それ以外にも、たとえば海外出張中に娘から相
談事のメールが来たり、デジタルカメラで撮った写真を
メールにくっつけて送ったりしています。
皆さん、デジタルカメラはお持ちですか？ とても簡単
で楽しいですよ。そうだ、皆さん、ちょっとくっつい
てくれますか？

(デジタルカメラを取り出し、3人の写真をパチリ)
ホラね。簡単でしょ？ いま撮ったものをそのまま貼り
つけて誰かに送信したり、デスクトップの壁紙に使っ
たりできる。僕のデスクトップにはデジタルカメラで撮
った愛犬コウスケの写真を貼っています。
それから僕は囲碁が好きなので、インターネットでよ
く囲碁を楽しみます。そこにはいろいろな国の人たちがい
つも来ていて、リアルタイムで対局しているんですよ。
対戦するには、待っている人に申し込んで、相手がOK
するとすぐ対局できます。それに他人が打っているのを
ただ見ているだけでも、すごくいい勉強になるんですよ。
こんな面白いアプリケーションソフトはないですよ。僕
は久しぶりにパソコンの前で胸がどきどきしました。

WWGo インターネット囲碁対局
URL <http://www01.tjsys.co.jp/jp/>

細谷：インテルのCMに出てくる人は
みんな宇宙服みたいなのを着ていますが、
あれはどうしてですか？ 本当にあんなの
を着て働いているんですか？

西岡：半導体を作るには、ホコリは厳
禁です。たとえば液晶などは作っている
過程でホコリが付着すると、画面のどこ
かに表示できない部分が出てきて
しまうんです。だから製造過程でゴミや
ホコリを徹底的になくさなければいけな
いんですね。そのために工場に入るとき
にはあの宇宙服みたいな防塵服を着ま
す。あの服はものすごく清潔に管理され
ています。でも、単にあの服を着れば
いいのではなくて、タバコを吸う人は

うブランドを知ってほしい」という願
いがあるんです。「パソコンに『intel
inside』というステッカーが貼られてい
たら安心ですよ」というイメージを定着
させたいんです。でも、自分の会社の
CMなら、どこだって自社の製品がはい
って言うに決まっています。だから第三者
であるパソコンメーカーに、『intel inside』
と入れてもらったんです。第三者に宣伝
してもらおうというのは説得力があります
からね。たぶんそういうCMをやっている
のはインテルぐらいでしょうね。

でも、日本でこういうCMを流すのはと
ても難しかったんですよ。「1つのCMの
枠の中に2つの会社の説明をされては実
際にどちらのCMなのか分かりづら
くなる」と反対されたんです。でも僕は
「しかしインテルプロセッサは、あくまで
PC内の部品の1つということで、心配
されるような混乱を招くことはないの
ではないだろうか」と主張したんです。そ
れでようやく実現にこぎつけたという経
緯が、あのCMにはあるんですよ。

箱石：パソコンメーカーに『intel
inside』と入れてもらう場合、お金のや
りとりはどうなっているんですか？

西岡：それは企業秘密ですよ(笑)。

あのCMの謎が 知りたい!

入室禁止だし、そこで働く女性も入室
するときにはお化粧は一切していません。
空気を汚すという理由からです。それだ
け厳重に管理されているんです。
ところでみなさんは「インテルは部品屋
さんなのに、どうして一般向けのテレビ
CMをするの？」って思うでしょ？ それ
には「エンドユーザーにもインテルとい



箱石：これから先のパソコンについて、西岡さんはどんなイメージをお持ちですか？

西岡：これからのパソコンは、人間にとってより自然なものになっていくと思います。今のパソコンは、人間の優秀さにはまだ全然追いつけません。たとえば廊下である男性とすれちがって「あ、この人素敵だなあ」と思うと、人間は一瞬で判断ができますよね。でもパソコンの場合は、まず映像を取り込んで、画像情報の中から顔の位置を判断して、目と顔との面積の割合や、鼻や口の形など、複雑な計算をしなければなりません。パソコンがこうした人間のマルチメディア能力に追いつくのはまだまだ難しいのです。だから将来、パソコンをより人間に近い優しいコンピュータにするために、もっともっとMPUの性能向上が必要なのです。

また、ノートブック型のパソコンも発達してくるでしょうね。電話はやつと携帯が当たり前になりましたが、パソコンも持ち歩きができて、常に身近に置いておく方が絶対便利です。だからこれ

これからのパソコンは
どうなるの？

からは、もっともっと軽く、薄くなって

くでしょうね。もしも液晶をバタバタと折りたたむことができれば、大きさだってもっとコンパクトになるでしょう。

そして未来のパソコンはもっと人に優しくなるとも思います。最近「すごいなあ」と思ったのが、映像を音響効果で表現することによって、目の不自由な方でもパソコンが使えるという技術の開発です。目が見えなくても、音でマウスの位置がわかるそうなんです。この技術は、まだ商品化はされていないけれど、そんな風にパソコンはこれからどんどん人に対して自然になっていくんだと思っています。

箱石：パソコンは確かにおもしろいけれど、高く手が届かないんです。

西岡：それは正直言って驚きだなあ。たった20万円ですよ。あなた方が買わないで誰が買うの(笑)。あなた方がいちばん可処分所得があるでしょ？我々からすれば大金だけれど。

パソコンって
高すぎると思うんです...

箱石：20万円は「たった」じゃないですよ！3,980円とかだったら迷わず買うんですけどねえ。

青木：今買っても2年後には時代遅れになってしまいかもしれないのがつらいところなんですよね。

西岡：そこは痛いところだね(笑)。でもね、進化するスピードを遅らせるわけにはいかないんだよね。最大限にスピードを上

げて開発していかないと、人類にとって損でしょ。だって、技術開発のスピードを意図的に遅らせていたら、今できるさまざまな楽しいことも、みんなできなかつたんですよ。どっちが幸せかっていったら、やっぱりいるんなことができたほうが幸せでしょ。たしかに、買って半年後に新しいものが出たらがっかりするけど、それはパソコンだけじゃなくてもある話だと思います。でも、パソコンってすばらしいと思うのは、5~6年前に20万円で買ったパソコンと、今20万円で買えるパソコンの性能を比べてみてください。いったい何十倍になったでしょうか。パソコンというのは、性能は飛躍的に上がるのに、値段はいつも同じなんです。そこがパソコンのマジックだと思うのですが、そのマジックのもとにはインテルがいて、どんどんMPUの性能を上げていても、いつも市場に対してはほぼ同じ値段で投入しています。性能が10倍だから価格も10倍などは決して言わない。そういう意味で、パソコンというのはすごくフェアな商品だし、今の20万円と昔の20万円の値打ちを比べたら、むしろ性能は上がっているのに値段は下がっています。そう考えたら、あまり憎らしくなくなるんじゃないですか？(笑)

もっと見たかったら
ここにアクセス!

女性ビギナーのためのウェブマガジン
My First パソコン
URL <http://www.kaps.co.jp/>



まだまだ圧倒的に男性ユーザーが多いパソコン。パソコンに興味はあってもなかなかとりつきにくい、わかりづらい、という多くの女性のための「簡単!」「わかりやすい!」「楽しい!」ホームページがこの「My First パソコン」だ。インターネットからマスター術やデジタルを使いこなすステキな女性の紹介などを、毎週火曜日更新で連載中。また、本連載の「My First Question ~ どうなってるの?」の様もウェブ上で紹介している。



Intelが4月15日に発表したPentium® プロセッサ(350MHzおよび400MHz版)
URL <http://www.intel.co.jp/>

今日参加されたみなさんは、初心者と言いつつ、パソコンにとっても興味を持たれていましたね。みなさんとこのようなお話ができて、僕もとても楽しかったです。

コンピュータに関して、世の中には食わず嫌いの人もたくさんいたりするんですよね。単に仕事をするためだけの道具だと思ったら、やはりつまらない。だから、パソコンをもっと自分に近付けていったらいいと思うんです。まず一番手ごろな第一歩は、デジタルカメラ。これはほんとにオススメです。とにかく簡単で面白いですから、そういう楽しいことからどんどん始めていってほしいですね。

西岡さん
いかがでした?





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp